

平成 26 年の年頭に際して

国立国会図書館長
大滝 則忠



謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

この月刊『レファレンス』誌は、昭和 26 年の発刊以来、国会議員の職務遂行に資するべく、多様な国政課題の分析、内外の制度紹介をはじめ、国政の中長期的課題に関する調査論文を掲載しておりますので、今後ともご活用いただきたく存じます。

国立国会図書館は、国会の補佐機関としての機能を更に充実させるように、国会サービスを専ら担う調査及び立法考査局はもとより、館の組織全体をあげて取り組んでおります。新年を迎えて、その機能の更なる向上を目指し、以下の 3 つの柱のもとに、一層の緊張感を持ちながら、心新たに取り組みたいと考えている次第です。

第一は、国会議員からの日常的なご依頼に対する調査回答について、秘密の厳守、的確かつ客観的を旨としながら、より充実させることを目指します。直近の平成 24 年度実績で、これら依頼調査に対応した資料や調査報告等の提供件数は、合計約 37,000 件に上ります。回答内容としては、図書・雑誌等の複写や貸出しはもとより、調査報告書の作成、国会議員が主催する研究会等での説明等の求めにも応じています。近年の傾向としては、当日中または翌日中に迅速な調査回答を求められる場合が、全体の 3 分の 2 以上に上っています。

第二は、今後の国政課題に関する予測調査を一層充実させることを目指します。平成 24 年度実績では、合計 324 本（約 4,100 頁）の調査論文記事を作成し、議員会館事務室に刊行物をお届けしたり、ホームページを通じて提供しています。また、分野横断的な国政の中長期的課題については、プロジェクトチーム編成による総合調査にも取り組んで、その調査成果を、「政策セミナー」の開催や報告書の刊行を通じて提供しています。

第三は、国会の補佐機関としての国会と国民を繋ぐ働きの一翼を担い、国会発生情報を発信する活動の強化を目指します。国立国会図書館は衆・参両院事務局と協同して、国会会議録データベースをインターネット提供しています。新年には、このデータベースを一層利便性あるものとするように取り組む予定です。また、上記の予測調査の成果を国民にもご活用いただけるように発信を続けます。

国会の補佐機関としての国立国会図書館の活動は、館が蓄積する内外の膨大な情報資源を駆使して行われることに特徴があります。そして、ご依頼に的確に応えるべく調査回答に当たる担当者の熱意ある仕事ぶりが、国立国会図書館の活動に対する信頼を生み出す源です。引き続き、職員の育成も含めて、国会サービスのための資源を充実させるよう努める所存です。

今年も一年間、更に信頼され、皆様のお役に立つ国会の補佐機関を目指して取り組ましますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。